

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第55号 7月31日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
発行責任者 古津 昇

目次

| | |
|------------------------------------|------|
| 農家さん訪問記 (40) | p.1 |
| 住友化学アグログループ紹介 レインボ-薬品(株) | p.6 |
| 野菜の病害虫防除・お役立ち情報 | p.7 |
| 食の安全性について考える(12) | p.8 |
| 今月のお奨め農薬 | p.9 |
| 農薬あれこれ?なぜなに?コーナー | p.10 |
| 今月のご相談から | p.11 |
| 農薬登録情報 | p.12 |
| 病害虫発生情報 | p.13 |
| 最近の「お・・美味しい!」 | p.14 |
| コラム・そば談義 | p.15 |
| 編集後記 | p.15 |



アメリカハシキ(ミズキ科)とコマドリ(ツグミ科)
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(40)

地域の未来を開く農業法人!

今回の農家さん訪問では、北海道石狩郡当別町で、地域農業の活性化に貢献されている農業法人(有限会社 当別ひろがりファーム)を訪ねました。今回紹介するのは、辻野 浩さん、河地義明さん、湯浅和紀さんの皆さんです。(訪問日:6月23日)

当別町は南北に長く、北部は丘陵地帯で、当別川が流れ、南部は平野で、札幌市に隣接し、人口が約2万の町です。主な産業は農業(水稻、花卉)及び林業で、石狩支庁では最も高い水稻生産量を誇っています。

後継者不足は地域経済の衰え

辻野さんが経営する株式会社辻野商店は大正3年に雑穀商として当別の地に創立され、昭和23年には政府指定集荷業となりました。昭和37年には農家の倉庫建設を主体にした「辻野建設工業株式会社」を立ち上げ、「辻野グループ」となりました。その後、「株式会社当別燃料」(ガソリン、プロパン、灯油の販売業)や「株式会社T・G・S」(アパート斡旋業)を「辻野グループ」に加え、平成15年には今回紹介する「有限会社当別ひろがりファーム」がスタートしました。この間、「米蔵ウィークエンドギャラリー」を開催したり、TG こんもりホール&青木クラシックギター工房を建設するなど、当別地区の流通と文化の一つの核というべき存在となっています。辻野さんはこの辻野グループの5代目社長です。

本誌に登場する皆様のご紹介
(*印の方に今回お話を伺いました)

辻野 浩さん(48歳)*

株式会社辻野商店の社長で「当別ひろがりファーム」の社長を兼務

高橋 守さん

「当別ひろがりファーム」立ち上げに参画

河地義明さん(60歳)*

この農業法人の農地を実際に耕作されている農家さん

河地友弥さん

河地義明さんの息子さん

湯浅和紀さん(32歳)*

JGAP 指導員として「当別ひろがりファーム」の運営に参画

このように当別地域に古くから根付き、当別の主要産業である農業と連携して業務を拡大してきましたが、10年程前から、この地域にも後継者不足問題がしのびよってきました。後継者が



(株)辻野商店 社屋前にて
左から湯浅さん、辻野社長、河地さん

無く、基本的に農業が継続できなくなった農家が出現し、今後、徐々に増えてくると思われる状況となってきています。当別地区の農家の平均年齢は約60歳で、高齢化が進んでいます。また、農家戸数は約600戸ですが、後継者がいないところが半分以上あり、しっかりとした後継者がいるのは3割程度にすぎません。「当別ひろがりファーム」を運営する河地さんが住んでいる地区では、60戸の農家の内、後継者がいるのはたった3戸です。これら後継者のいない農家でも農地はまだ放棄はされていないものの、他の農家での委託栽培となっているところが殆どです。この状況を改善するため農作業の集団化が推進されています。この集団では耕作、播種、収穫、調整出荷の4種の作業を共同でおこない、農家間で重複する機械を整理し、コストダウンを図っています。この集団化には農水省の補助金もあり、農家へ薦められ、加速されており、当別地域では50グループほどになっています。また、家族による法人化も増えています。とはいえ、このままではいずれ訪れる後継者不足は解決せず、地域の活力が低下するのは避けがたい状況となっています。

農事法人立ち上げの決断！

辻野さんはこのような状況のなかで、取引先である農家の活力がなくなると、辻野グループの経営も苦しくなると考えました。そこで後継者不足で農作業が出来なくなる農地の受け皿として、本格的な農事法人を立ち上げることを企画しました。しかし、各農家の農事法人に求める目的が異なることに加え、もともと、自由に農作業の内容を決めているので、法人化により、自分の考えがしばられるのはいやという農家が多く、法人化はあまり進んでいませんでした。

そこで、辻野さんは従来から農産物の取引を通じて面識のあった高橋守さんに声を掛けました。当時、高橋さんは地域農家の連携を深めるための翼農会の会長を務めており、地域全体に知られていることに加え、高橋さんには後継者がいないので、辻野さんの企画に賛同し、法人化に参画しました。また、辻野さんは河地さんにも声をかけました。河地さんは高橋さんの近隣に住んでおり、共同でコンバインを使用するなど、高橋さんと色々な面で連携していました。

河地さんは後継者として息子さんもおり、奥さんを含めて家族で20haの農地を管理していたので、当面は困らない状況でした。しかし、近隣地区の状況について強い危惧を抱き、集団化や委託栽培などを含めて、周りの農家と何かやらねばと相談していました。そこに辻野さんからの呼びかけがありました。そこで辻野さん、高橋さん、河地さんが集まり「有限会社当別ひろがりファーム」を立ち上げることになりました。立ち上げの準備作業が始まってから、立ち上がるまでの期間は一年しかかかっていません。このように立ち上げが早かった理由は辻野さんという旗振りがあったためです。個人プレーの農家をまとめるには第三者のほうがやりやすい面があります。また、複数の農家が集まって法人化する場合、解決しなければならない問題として、農地所有権の処理がありますが、「当別ひろがりファーム」では高橋さんと河地さんの農地を会社が借り上げ、会社から二人にその賃料を支払う形で解決しています。

法人化は利点ばかりではありません。栽培面積が大きくなり、これに対応するため、従来所有していた機械では間に合わず、各種機械の大型化が必要となりました。また、新規に購入し



風に揺れる小麦の穂
(当別ひろがりファームの
農場から)

た大型のトラクターを含めて作業用車両が現在では5台となりました。また、麦、米、大豆用の各種乾燥機、コンバイン等が増えたので、これらを収納する場所として新たに100坪倉庫が必要となり、購入費用の負担が増えています。また、栽培規模の拡大のため平成19年から20haの農地を借りていましたが、この農地の所有者に後継者がいないために農地を手放すことになりました。この結果、平成20年春にはこの農地を購入せざるを得なくなり、新たな費用負担が増えています。このような費用負担増も克服しながら、現在では「当別ひろがりファーム」は52haの栽培面積となっています。

農場運営の整備はJGAP認定取得から



河地さん宅の農機納屋内
農業用機械がずらりと並びます

湯浅さんは実際の農作業はやっていませんが、辻野商店の社員として、「当別ひろがりファーム」の物品購入、経理、出荷等全体の業務を担当しています。湯浅さんはこれに加えて、JGAP（Japan Good agricultural Practice：末尾に解説）指導員に登録されています。湯浅さんがJGAP指導員となった経緯は次の通りです。湯浅さんは辻野さんとJGAPの研修を受け、帰り際に直ぐに辻野さんが「やろう」と判断しました。辻野さんは「取り入れることによって会社としての体裁も整うし、リスクも減る。また、いずれ取り入れることになるだろうし、やるなら早い方がいい。輸出などの話となった場合、ハードルが高い方が、差別化に

つながる」と考えました。辻野さんのこの判断を受け、以前から農業をする仲間を増やしたいと考えていた湯浅さんはJGAP指導員となり、「当別ひろがりファーム」をJGAP認定農場とすることに注力しました。河地さんは実際に農場を運営するなかで、JGAP認定されたことの具体的利点を次のように考えています。

計画を十分立てて作付けするので、突発的な予定外のことが少なくなる。
使用する資材も決まってくる。JGAP認定なので、使うべきものしか使わない。
農薬も在庫を置かない。シーズンが終われば農薬管理庫は空になっている。
以上のようなことがキッチリできるようになり、色々なことでの無駄がなくなった。

一方、JGAP認定により、生産物に付加価値を付けることで、流通段階での差別化を図ろうとしていますが、当初に思ったほどではありません。なぜならJGAPは農場のためのものであり、生産物・商品に対するものではないため、宣伝の仕方が難しいからです。とはいえ去年はJGAP認証農場で生産された米として出しています。この米は業務用が主なので、消費者というより、流通に理解してもらい必要があり、辻野商店取り扱い品にはJGAP認証を受けた米があるとの宣伝しかできないようです。

JGAP制度は始まって間もないので、JGAP制度に対する農家、流通、業者、消費者での認知度がバラバラであり、もう少し時間がかかるでしょうが、地道に続けていくことで、将来的な差別化を目指しています。

将来の規模拡大に向けて・・

「当別ひろがりファーム」の現在の栽培規模は約52haで、水稻（品種：ななつぼし、きらら397、ゆめぴりか）は約7ha、秋小麦（品種：ホクシンコムギ、きたほなみ）は約33ha、春小麦（品種：ハルユタカ）は約4ha、大豆（品種：トヨムスメ、ユキホマレ）は約5ha、小粒黒大豆は約1.5ha、亜麻は0.5ha、野菜は0.14haとなっています。

水稻栽培は病気の発生が少なく、手間はかかりませんが、平均収量は8俵（480kg/10a）12000円/俵程度でそれほど利益は上がりません。小麦、大豆は加工業者に出荷しています。小麦は主にパン、うどん、中華麺等の加工用で、大豆は一部を豆腐、納豆製造業者に出し、で

きた豆腐、納豆を辻野商店で販売してします。水稻に比べると麦と大豆は収入がいいようです。小粒黒大豆は小粒納豆ほどの大きさの黒大豆で加工用（豆腐、納豆、きな粉）と五穀米などの材料として出荷しています。

亜麻は、10年ほど前から操業している亜麻公社に依頼され栽培を始め、今年で4年目になります。亜麻の栽培には農薬を使用できないので、除草などの作業に大変手間がかかります。現在の収量は約100kg/10aで以前に比較して上がっていますが、価格は800円/kg（1ha以上栽培の場合）で、投下労働に見合った収入が得られません。亜麻油の需要は雑誌で紹介され増加しており、町おこしのため、「北海道亜麻まつり in 当別」を開催して宣伝をしていますが、価格が上がらない限りこれ以上の栽培面積を増やすことは無理と河地さんは判断しています。

高橋さんが現在病氣療養中で、この52haの栽培面積を河地さんの家族3人で運営していますが、栽培規模としては限界になっています。しかし、河地さんはこの限界を打破して、100haに拡大することを目標にしています。このためには10haで一人を目処に増やす必要があり、若い人をいれて、人を増やして楽しみある農業経営を目指しています。

ここで問題になるのが給与体系や休暇に関する農事法人特有の課題です。当別に限らず北海道の農業法人の悩みどころとして、冬場に仕事がなく、年間雇用を前提とした場合の給与体系をどうするかが問題になります。現在、社員である河地さんの息子さんには一般サラリーマンと同等の金額を支給していて、冬の間は勉強に充てるとしています。しかしこの点を解決し、年間雇用を前提とした給与体系でないとい他の人は来ないだろうと考えています。また、休暇に関しては、日曜日は休みとしてありますが、農業は作業日程をきっちりと決められない部分があり、播種時期は忙しく、雨が降ったら作業は止まってしまい、業務の平均化が困難で、ここを判ってもらいたいと考えています。

辻野さんは100haの規模拡大に向けて色々なアイデアを持っています。先ず畜産との組み合わせです。「当別ひろがりファーム」に畜産を取り入れれば、堆肥をまかなうことで循環型農業を行えることになります。これは化学肥料を使用することによる便利さを失い大規模化とは矛盾する面もありますが、冬期に農作業がなくなる問題が解決します。次に稲の直播栽培（北海道用品種ほしまる）を導入し、植え付けまでの労力の軽減、育苗施設の不要化を図り、大規模化に対応します。更に亜麻栽培に代表される観光化も念頭においています。また、今年から「当別ひろがりファーム」の一部の畑（100坪）を札幌の夫婦に栽培してもらっています。このように札幌に近いことを利用し、兼業の人を入れることも考えています。実際に「辻野建設自給自足事業部」として現在、人を募集中です。

また、湯浅さんはJGAP指導員として、GAP認証農家を増やすことに意欲を持っています。近隣の農家には主に40歳代の人を中心にGAPに興味を持っている人も多くいます。しかし、作物の残渣を農場で燃やしてはいけないなどの規則をいやがる身内を納得させるのが困難で、GAP認証に踏み切れないでいます。このような農家に対し、GAP認証を受けている「当別ひろがりファーム」を核として、多くの農家にGAPに興味を持ってもらい、GAP認証の仲間が増えれば生産量の規模が大きくなり、生産者もやりがいが出てくると考えています。



亜麻畑の全体はこんな感じ



これが亜麻(拡大)です
花が咲くととても綺麗だそうです。

最後に・・・

「元気に既存のことを活かしつつ、新しいことに挑戦する」これは、辻野さんの言葉です。辻野さん、河地さん、湯浅さんは三人三様の知恵を結集し、「当別ひろがりファーム」を核として、地域の活性化に挑戦しています。熱くお話をされるお三方を見ていると、こちらもなんだか、力が出てくるような感覚になるのが不思議です。

お話の後、「当別ひろがりファーム」の農場の一つを見せていただきました。その農場では大豆や小麦が育っていました。今年は天候がいまひとつで生育も遅いとのこと。しかし、この大豆や小麦も、「当別ひろがりファーム」も、この当別町の農業も、いろんな困難にも負けずこれからも、力強く伸びて行ってほしい・・・と心から思いました。

今回の取材は「株式会社日の丸産業社」様のご協力により実現しました。ご協力に感謝いたします。



当別セレクトショップ「つじの蔵」
(辻野商店さんホームページより写真を拝借)

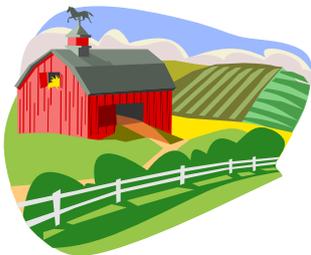
当別町産にこだわった農産物加工品ショップです。
お豆腐もここで売られています。
この他にも美味しそうなものがいっぱい！！
ホームページはこちらです
<http://www.tsujinokura.com>

(山脇・佐伯)

(注) JGAP (Japan Good agricultural Practice)

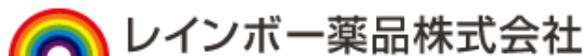
GAPは「適正農業規範」や「農業生産工程管理手法」と訳され、JGAPは直訳すると「日本版・良い農業のやり方」です。

詳しくは日本GAP協会まで：<http://jgap.jp>



[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介 **レインボー薬品株式会社**



雑草でお困りの方はレインボー薬品におまかせください!!

夏場の雑草対策には…

パラパラ撒くだけで雑草を根こそぎ枯らし、長期間効果が持続する

「ネコソギエース A 粒剤」がおすすめですよ!!



「ネコソギエース A 粒剤」の特長

- ・ 3種類の有効成分がバランスよく配合されている高性能の除草剤です。
- ・ 散布後約7～14日ほどで効果が現れ、約1ヶ月で雑草を根まで枯らします。
- ・ 約6ヶ月に渡り、長期間雑草の発生を抑えます。

「ネコソギエース A 粒剤」の使い方

使い方は簡単。本剤をそのまま地面にパラパラ撒くだけです。水に溶かす必要はありません。

散布時のワンポイント!

- ・ 均一に土壤に落ちるように散布します。
- ・ 土壤が極端に乾燥しているときは、降雨後やジョロ等で散水した後に散布すると効果的です。
- ・ 雑草の草丈が低いときに使用すると効果的です。

散布時の注意事項

- ・ 枯らしたくない植物の根が生えていると思われる場所には散布しないよう、十分注意してください。
- ・ 効果にムラが出ないように、散布後当日はその場所に入らないでください。

レインボー薬品は、雑草対策についてのさまざまなご質問を、一般のお客様から直接お電話などで頂戴します。今回は、その中から特に土壌処理剤(粒剤)に対する代表的な質問をご紹介します。

よくあるご質問

- Q. 粒タイプの除草剤を散布して3日経っても変化がないのですが、効果がないのですか？
- A. 粒タイプの除草剤は効果が現れるまで日数がかかります。成分がいったん土壤に移行してから吸収されるため、散布時期にもよりますが、効果の発現には7～14日程度がかかります。
- Q. 今日、雨が降るのですが、今から除草剤を撒いても大丈夫ですか？
- A. これから夏にかけては思わぬ豪雨になる可能性があります。粒が流されてしまい効果にムラが出たり、思わぬ場所で植物が枯れてきてしまったりする恐れがありますので、雨上がりに散布する事をお勧めします。

レインボー薬品株へのお問合せは 電話 03 6740 - 7777 までどうぞ！
レインボー薬品株のホームページ <http://www.rainbow-f.co.jp/> こちらもお待ちしております！

[目次へ戻る](#)

野菜の病害虫防除・お役立ち情報 《最終回》

ネギの病害虫の適正防除で秀品率を高めよう!

病害類による品質低下に加えて、秀品率の低下を引き起こす害虫類の発生とネギの生育時期別の被害との関連から、体系（同時）防除について述べ参考に供する。

1. ネギ生育期に於ける害虫類の発生・増殖・被害条件と体系（同時）防除について

ネギの加害害虫類の発生・増殖・被害は、ネギ生育期の高温・乾燥（少雨）条件で増加傾向にある。

害虫類の発生時期(カッコ内多発生時期)は、アブラムシ類は3～11月(4～6月・9～11月)、ネギハモグリバエは4～11月(6～9月)、ネギアザミウマは4～11月(6～9月)、シロイチモジヨトウは4～10月(8～10月)、ネギコガは5～10月(7～8月)、タネバエは3～6月・9～10月(4～5月)、ハスモンヨトウは7～11月(9～10月)である。加害害虫類は年間の発生(世代)回数が多く、被害が茎葉内まで及ぶことから、定植後から害虫類の発生初期を中心とした体系（同時）防除が効果的である。栽培作型によって害虫類の発生相は異なるが、秋冬どり栽培を対象とした害虫類の体系（同時）防除例を示すと次の通りである。

(表中、赤文字の薬剤は弊社薬剤を示す)

| 防除時期 | 対象害虫類 | 防 除 薬 剤 |
|------|--|--|
| 定植時 | アブラムシ類 ネギハモグリバエ ネギアザミウマ ネギコガ ネダニ | 健全苗を厳選して植付ける。 アブラムシ類はアグロスリン乳剤、スミチオン乳剤。ネギハモグリバエ、ネギアザミウマはベストガード粒剤、ダントツ粒剤(露地栽培)、ジメトエート粒剤。ネギコガはオンコル粒剤5。ネダニはジメトエート粒剤などのいずれかを作条(植溝)に施用する。 |
| 生育初期 | ネギハモグリバエ ネギアザミウマ ネギコガ | ネギアザミウマ、ネギハモグリバエはダントツ水溶剤、ダントツ粒剤(露地栽培)、アグロスリン乳剤。ネギコガはスミチオン乳剤、アグロスリン乳剤などのいずれかを散布する。 |
| 生育中期 | ネギハモグリバエ ネギアザミウマ シロイチモジヨトウ ネギコガ | ネギハモグリバエ、ネギアザミウマはジメトエート粒剤、オンコルマイクロカプセル。シロイチモジヨトウはフローバックDF。シロイチモジヨトウ、ネギアザミウマ、ネギコガはアディオン乳剤、ハチハチ乳剤などのいずれかを散布する。 |
| 生育後期 | アブラムシ類 ネギハモグリバエ ネギアザミウマ シロイチモジヨトウ ネギコガ | アブラムシ類、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ、シロイチモジヨトウ、ネギコガはアグロスリン乳剤。アブラムシ類、ネギアザミウマ、ネギコガはスミチオン乳剤。シロイチモジヨトウ、ネギアザミウマはプレオフロアブル。シロイチモジヨトウ、ネギアザミウマ、ネギコガはハチハチ乳剤などを散布する。 |

2. 留意事項

- 1) 薬剤散布に当たっては、安全使用基準を必ず守りましょう。
- 2) 薬剤調製に当たっては、必ず展着剤を加用します。
- 3) 害虫類は発生世代回数が多いので、発生初期(早期)防除を徹底し、生育期毎に連続(体系)防除すると効果的です。多発生時期は散布間隔を短縮して防除をします。
- 4) 乾燥(土壌水分少)条件での粒剤施用は効果が劣るので、散布剤に換えて防除します。

(技術顧問：村上)

今回で本シリーズは終了させていただくことになりました。ご愛読ありがとうございました。

[目次へ戻る](#)

食の安全性について考える(12)

食品安全行政について(3)



食品の安全や食品衛生に関わる中心的な法律は、食品衛生法であるが、それに関連する重要な法律として、農薬取締法、植物防疫法、家畜伝染病予防法、薬事法などがある。今回は3つの関連法律について述べる。

1. **家畜伝染病予防法**は、「家畜の伝染性疾病(寄生虫病を含む)の発生を予防し、及びまん延を防止することにより、畜産の振興を図ることを目的」(第1条より)として1951 昭和26年に制定されたものである。本法律は生きた家畜ばかりでなく食品としての畜肉やその加工品も対象としている。

重要な家畜疾病としては、偶蹄類動物(牛・豚・羊など)に発生する口蹄疫がある。日本は非汚染国のため、世界保健機関(WHO)で汚染地帯とされている地域からの輸入は原則として許可されていない。さらに、生体・肉・臓器・ハム・ソーセージ類などについても細かな規制がなされている。たとえば豚肉は台湾から大量に輸入されているが、口蹄疫のために中国大陆からの輸入は認められていない。最近の大きな事件は輸入牛肉がBSE(牛海綿状脳症)問題で店舗から撤去され、牛井の吉野家からメインの品が消えたことだろう。ところで意外と知られていないのが「みつばち」が指定検疫物(検査が必要なもの)に含まれていることだろう。

2. **薬事法**は、「医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器の品質、有効性及び安全性の確保のために必要な規制を行うとともに、指定薬物の規制に関する措置を講ずるほか、医療上特にその必要性が高い医薬品及び医療機器の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上を図ることを目的」(第1条より)として1960 昭和35年に制定された。

2002年の夏になるが、中国製のダイエット用健康食品がブームになり、これを服用していた女性が肝機能障害などで死亡するという痛ましい事件が起きた。これに関連する健康被害が当時は相次いだため、大きな社会問題となった。例えば、「食品」として輸入されたものが、治療効果などを明記して商品化されれば、薬事法に抵触することになる。上記の事件は個人輸入業者によって健康食品として個人的に輸入されており、薬事法が適用されなかったために被害が起きたと考えられる。

食品ではないが、かつて話題になったものとして、中国から「やせる石鹼」なるものが輸入され、大流行したことがある。このケースにおいては違法性が問題とされたが、その理由は化粧品に対しては「薬事法」が適用されるからである。

3. **毒物及び劇物取締法**は毒物及び劇物について、「保健衛生上の見地から必要な取締を行うことを目的」(第1条より)として1950 昭和25年に制定された。

毒物および劇物の判定は、おもに動物における知見(急性毒性、刺激性)に基づき行われ、例えば、急性経口毒性値(LD50)が50mg/kg以下であれば「毒物」に、50mg/kgより大きく300mg/kg以下であれば「劇物」に指定される。また、硫酸や水酸化ナトリウムなどの皮膚腐食性のある物質と同等の性質を有する場合も「劇物」に指定される。

医薬品と医薬部外品には薬事法が適用されるが、それ以外の化学物質、植物、鉱物由来のものは本法律が適用される。昨今、食の安全が叫ばれるなかで、これらの取扱いには細心の注意が必要である。(古津)

参考文献 嘉田良平著 「食品の安全性を考える」 (財)放送大学教育振興会

[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

樹木の病害虫防除（3）

前は樹木の害虫防除に焦点をあて解説しました。今回は樹木の病害に焦点をあてます。樹木を含む植物の病害も害虫と同様多種多様ですが、病原体の種類で見ると、糸状菌、細菌、ウイルスがあります。

糸状菌はいわゆるカビで、糸状の菌糸を伸ばして生長するのでこの名前と呼ばれています。植物の病害の大多数は糸状菌が原因で、成長すると肉眼でも見える場合があります、きのこ類も担子菌と呼ばれる糸状菌の仲間です。細菌は単細胞の生物で、分裂して増殖し、肉眼で確認するのは困難です。ウイルスはたんぱく質と核酸だけで出来ており、生物と無生物の境界に位置するものです。動物の病害も糸状菌、細菌、ウイルスが主な病原で、糸状菌では水虫を引き起こす白癬菌、細菌ではコレラ菌や結核菌、ウイルスではインフルエンザウイルス、エイズウイルス等が良く知られています。

病気の一例としては、公園や家庭の生垣としてよく植えられている「かなめもち」に発生するごま色斑点病が挙げられます。この病気が発生すると、葉一面に斑点ができ、折角の美しい葉が台無しになってしまいます。このような病気を見つけたら、早急にベンレート水和剤を散布してください。病気は予防が大切です。降雨で湿度が高くなるなどにより、病気の発生が予想される場合は適切に農薬を散布してください。

「樹木類」に適用のある殺菌剤としてはベンレート水和剤、アンビルフロアブル、リゾレックス水和剤、ボルドー（水和剤）をお奨めします。それぞれの薬剤で効果が確認されている樹木の病気は次の通りです。

- 1) ベンレート水和剤 : ごま色斑点病、炭疽病、輪紋葉枯病
- 2) アンビルフロアブル : 「樹木類」としては炭疽病

「樹木類」以外に「やなぎ」の葉さび病、炭疽病、「ぼけ」の赤星病、炭疽病、「せいようきんしばい」のさび病、炭疽病

- 3) リゾレックス水和剤 : くもの巣病、白絹病
- 4) ボルドー（水和剤） : 斑点症（シュードサーコスポラ菌）（注）

これらの薬剤は多くの樹種で安全性が確認されていますが、未確認の樹種では薬害のおそれもありますので、初めて使用される際は、使用者の責任において部分的に使用するなどして、事前に薬害の有無を十分にご確認ください。

（山脇）

（注）シュードサーコスポラ属の菌は数多くの樹種で似たような病気を引き起こしますが、各樹種によってこれらの病名は異なるため（斑点病、褐斑病、角斑病、その他）農薬登録上これらの病気をまとめて斑点症（シュードサーコスポラ菌）としています。



かなめもちの「ごま色斑点病」
葉に小円斑を多数生じ、周辺が紅化する。



ベンレート水和剤

[目次へ戻る](#)



こんなに薄くて、本当に効くのか心配です・・・

ご質問

殺虫剤のラベルに、散布での希釈倍数が「1000倍」と書いてありました。1000倍希釈液は、1リットルの水に対して、1mlの薬剤を溶かせば良いと聞きましたが、ほんとうに、こんな「ちょっとの薬液」を垂らす程度で良いのですか？なんか、効果が本当にあるのかな？って思います。

もう少し(たとえば、2、3滴)多く入れておいたほうが、よく効くような感じがするんですけど、ダメですか？

質問ポイント

農薬をラベル通りに薄めたら薄すぎる気がするので、少し濃くしても良いですか？

お答え

確かに、「1000倍希釈」や「2000倍希釈」で散布と言われて、実際に作業してみると、水の量に対して農薬の量が少ないと感じるかもしれません。ですが、ご安心ください。農薬のラベルに記載されている個々の使用方法は、**公的な試験機関で試験され、有効性が確認**された上で登録されているのです。

回答ポイント

- ・規定通りの濃度で、十分に効果があります。
- ・規定より濃くするのは、安全性が保障されず、法律違反になりますので、おやめください。

公的な試験機関では、対象となる**病害虫への効果と、作物に対する安全性を、実際の使用場面に沿った条件**で調べます。試験の結果、対象病害虫への効果と、作物への安全性の両方が確認されて初めて、その使い方が登録され、ラベルへの記載が許されるのです。

農薬をラベルどおりに使用するのとは、とても重要なことです。確かに、「濃いほうがよく効くのでは？」と考えるのは理解できますが、既に十分に効果があるのに、それ以上濃くしても無駄なだけです。また、濃度を濃くしすぎると、作物に何らかの害が発生する危険性が高まります。

そして、何よりも忘れてはいけないことは、その作物を食べたときの安全性です。作物への残留性は、農薬を規定通り使用した状態で調査されており、その結果をもとに、安全性が確保されていますので、規定よりも濃い濃度で使ってしまうと、安全性が保証できなくなってしまいます。そのため、**規定より濃い濃度で使用するのは法律で禁止**されており、罰則も定められています。

ラベルには、効果や安全性の面で、最適と考えられる使用方法が記載されています。どうか安心して、ラベル通り正しくお使いください。

(佐伯・南)

実は・・・



農薬のラベルにはいろいろな試験によってはじき出された「ちょうど良い」使い方が書かれていたのだ！

なるほど～！
そうだったのか！

[目次へ戻る](#)

今月のご相談から

野菜の害虫防除剤プレオフロアブルの 基本的なことを教えて下さい！

Q 1 . プレオフロアブルの基本的なことを教えて下さい。

どのような系統の殺虫剤ですか？

その殺虫効果は接触毒ですか？

浸透移行性はあるのでしょうか？

A 1 . 既存の殺虫剤とは異なる構造を有した、新しい系統の殺虫剤です。鱗翅目（チョウ目）及び総翅目（アザミウマ目）害虫などに高い殺虫活性があります。
接触毒と食毒の両方の効果があります。
作物に対する浸透移行性には乏しい薬剤です。



プレオフロアブル

Q 2 . プレオフロアブルはミナミキイロアザミウマの各生育ステージに効果があるのですか？特に卵に対してはどうでしょうか？

A 2 . ミナミキイロアザミウマの成虫、幼虫には良く効きますが、卵には効果がありません。しかし、プレオフロアブルの残効性がある内は、卵から幼虫がふ化し、薬剤と接触した場合、殺虫効果が発現することが期待出来ます。

Q 3 . ヒラズハナアザミウマに対する効果はありますか？

A 3 . このアザミウマは花の中で生息しているため、プレオフロアブルの効果は期待出来ません。ダントツ水溶剤、ベストガード水溶剤、スミチオン乳剤等をお使い下さい。

Q 4 . ミツバチやマルハナバチなどの花粉媒介昆虫に対する影響日数はどのくらいですか？またハナカメムシ類、寄生蜂、カブリダニ類などの天敵資材への影響についても教えて下さい。

A 4 . ミツバチやマルハナバチに対しては、プレオフロアブル散布後、丸一日空ければ「放飼」しても影響はありません。また、天敵資材に対しても影響が少ないことが確認されていますので、タイリクヒメハナカメムシ（アザミウマ類を捕食する天敵）やコレマンアブラバチ（アブラムシ類に寄生する天敵）、ハモグリミドリヒメコバチ（ハモグリバエ類に寄生する天敵）、チリカブリダニ（ハダニ類を捕食する天敵）等との併用が可能です。

Q 5 . キャベツのアオムシ（体長約2cmくらい）対象に、プレオフロアブルを3日前に散布しましたが、効いていないようです。どうしてですか？

A 5 . プレオフロアブルは効果発現までにしばらく日数がかかります。4～5日かかる場合もありますので、もうしばらく様子を見て下さい。作物の葉の裏にも薬液がしっかりかかっている間もなく効果が出ると思います。

Q 6 . 「ロメインレタス」には使えますか？

A 6 . ロメインレタスは別名で「立ちちしゃ」が農薬登録上の作物名です。プレオフロアブルは、「立ちちしゃ/ナモグリバエ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ」に、平成21年5月13日付で適用拡大になりました（1000倍で収穫7日前まで、2回まで）のでお使いになれます。

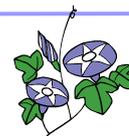
Q 7 . アスパラガスのハスモンヨトウに使いたいですが、降雨に対する影響を教えてください。また、ハスモンヨトウに対する残効性はどのくらい期待出来ますか？

A 7 . 一度乾けば降雨の影響は殆どありません。ハスモンヨトウに対する残効性はおよそ2週間程度は期待出来ます。

（小川）

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報



適用拡大 6月24日～7月8日までの主な適用拡大内容です

| 種類 | 薬剤名 | 変更点 | 作物 | 病害虫名/ 使用目的 | 使用量ほか | |
|-----|------------------------|-------------------------------|--------|---|-------------------------------|--|
| 殺虫剤 | アディオフロアブル | 害虫追加 | くるみ | シロテンクロ マイコガ | 1500倍 | 収穫7日前まで 2回以内 散布 |
| | スミチオン乳剤 | 害虫追加 | だいず | ウコンノメイガ | 1000倍 | 収穫21日前まで 4回以内 散布 |
| | ロディー水和剤 | 害虫追加 | びわ | カメムシ類 | 2000倍 | 収穫前日まで 4回以内 散布 |
| 殺菌剤 | スミブレンド水和剤 | 作物追加 | つるむらさき | 菌核病 | 2000倍 150～300L /10a | 収穫21日前まで 2回以内 散布 |
| 除草剤 | イッテツジャンボ ボランティアジャンボ | 適用雑草名 追加 | 移植水稻 | コウキヤガラ (関東・東山・ 東海) | 小包装(パック) 10個(400g) /10a | 移植後5日～ ルI 2.5葉期 ただし、 移植後30日まで 砂壤土～埴土 1回 水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。 |
| | ショウリョクジャンボ | 適用土壌 追加 | 移植水稻 | 関東・東山・東海の普通期及び早期栽培地帯に 「砂壤土」を追加することで、砂壤土の適用地帯を 「関東・東山・東海、近畿・中国・四国、九州の普通 期及び早期栽培地帯」とする | | |
| | ヨシキタジャンボ | 適用土壌 変更 適用雑草名 追加 | 移植水稻 | 関東・東山・東海の普通期及び早期栽培地帯の 適用土壌を「砂壤土～埴土」に変更 アオミドロ・藻 類による表層 はく離(東北) | | |
| 肥料 | 楽一27 | 使用方法 追加 | 水稻 | 節電・節水による 倒伏軽減 | 22.5～30kg /10a | 耕起～ 代かき時 全面施用土壌 混和 |
| | | | | | 15～30kg /10a | 1回 田植え時 側条施用 |



(佐伯・南)

[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

7月8日～7月16日

千葉県

- * 7月9日 **注意報 / なし / 黒星病**

当社登録剤：アンビルフロアブル、ベンレート水和剤、ダコニール1000

- * 7月15日 **注意報 / 稲 / 斑点米カメムシ類**

当社登録薬剤：スミチオン乳剤・粉剤2DL・3DL、スミバッサ乳剤75・粉剤20DL・50DL、ダントツ水溶剤・粒剤・粉剤DL・H粉剤DL・フロアブル、パダントレボン粉剤DL、MR.ジョーカーEW、ベストガード粒剤

- * 7月15日 **特殊報 / トマト / トマト茎えそ病(仮称)・・・ミカンキイロアザミウマから伝搬**

当社登録薬剤：ベストガード水溶剤(アザミウマ類)

詳細は：<http://www.pref.chiba.lg.jp/laboratory/agri/labo/pps/>

石川県

- * 7月15日 **注意報 / 稲 / 斑点米カメムシ類**

当社登録薬剤：スミチオン乳剤・粉剤2DL・3DL、スミバッサ乳剤75・粉剤20DL・50DL、ダントツ水溶剤・粒剤・粉剤DL・H粉剤DL・フロアブル、パダントレボン粉剤DL、MR.ジョーカーEW、ベストガード粒剤

詳細は：<http://www.pref.ishikawa.jp/noken/index.html>



アカスジカスミカメの成虫

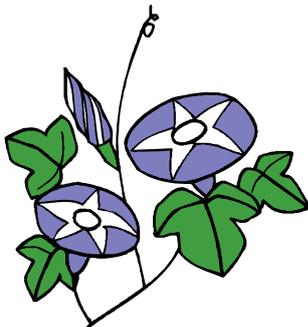
滋賀県

- * 7月15日 **注意報 / 稲 / ニカメイガ**

当社登録薬剤：アブロードパダン粒剤、スミチオン乳剤・粉剤2DL・3DL、スミバッサ乳剤75・粉剤20DL・50DL、ダントツH粉剤DL、パダンSG水溶剤・粉剤DL・粒剤4、パダントレボン粉剤DL・粒剤L、パダンバッサ粉剤DL・粒剤、ルーバン粒剤

詳細は：<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaichu/index.html>

(柳原)

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・美味しい！」

弊社相談室から佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい！」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ！」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪

「おかひじき」はすごい！

「おかひじき」という名前を聞いたことがありますか？あんまり聞きなれない名前かもしれませんが、海草みたいな名前ですが、れっきとしたお野菜です。カルシウムや、ビタミン、ミネラルなどが豊富で、海草のひじきに似ていることから、「おかひじき」と呼ばれているそうです。実は、私の実家ではよくこの「おかひじき」が食卓にのぼっていたので、そんなにマイナーな食べ物とは思っていませんでしたが、周りに聞いてみても「おかひじき？何それ？」という反応が多くて、「おかひじきファンの私」としてはちょっと残念なので、ここでちょっとご紹介したいと思います。



どうやら、この「おかひじき」、調べたら旬が4月～6月頃なのだそうです。だいたい一年中スーパーマーケットで見かけるので、旬なんてあるのかな？って思っていたのですが、さすが旬ですね。いつもより値段が安いんです。「あれ？いつもより安い・・・ってことは今頃が旬！？」主婦はこうやって野菜の旬を知るものです(笑)。

さて、その「おかひじき」を食べてみましょう。味は淡白でクセのない味です。特筆すべきはその食感です。驚くほど「シャキシャキ」で、この歯ざわりを楽しむために食べるといっても過言ではありません。調理のカンタンさという点でも、この食材は重宝します。あんまり茹ですぎるとせっかくのシャキシャキ感がなくなってしまうので、茹でるのもほんのちょっとでOK。丈も長くないので、わざわざ大きな鍋を引っ張り出してきて茹でる必要もないし、茹でてしまえば、カサも減



(調理例) 茹でて「おひたし」が大定番。しかしウチでは、茹でたものをポテトサラダに混ぜ込んだり、和え物に入れてみたり、そうめんに乗せたりと何かにつけ採用しています。緑色がキレイー！！

たまたま、私がいつも通うスーパーマーケットでは、この「おかひじき」を置いてあるのですが、ひょっとすると(そんなにメジャーな野菜ではないので)置いていないお店も多いかもしれません。でも！もし見かけたら、一度試してみてください。その歯ざわりと便利さを実感してもらえると幸いですよ



(佐伯)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義 55

最近、「狂言」を鑑賞することが時々ある。

キッカケは「そば会」仲間である「大蔵流派狂言」茂山忠三郎門下生のSさんから狂言の招待状が時々届くようになってからである。先日も、門下生の狂言会が渋谷東急セルリアンタワー能楽堂で開催され、そば仲間4～5人で駆けつけた。因みに、去年は千駄ヶ谷駅近くにある日本の伝統芸能を演じるに相応しい国立能楽堂で狂言を観ることが出来た。

今回、Sさんが演じる題目は「末広がり」である。狂言では主役を努める者を「シテ」、脇役を努める者を「アド」と称し、Sさんはシテの果報者を演じられた。Sさんの案内状に、「末広がり」は還暦のときに演じ、今回は古希を目前に再挑戦と記されていた。会社勤めをされながら趣味で狂言の世界に入ったそうだが、演目が始まりSさんの演技を観ていると、我々を招待するだけのことはあると感心するのである。それは演技から心に余裕が感じられ狂言本来のおもしろさを十分発揮されていて、競演者の方々と共に後まで残るいい演技をされていた。特に、ゆったりとした動きに間合いが感じられ、またよく通る声には張りがあり、日頃からかなりの稽古を積まれているのだらうと察するのである。

今までは「能」や「狂言」といえば、言葉が難解で理解しづらいと勝手に思い込み、この手のものは女房から「薪能」を誘われても敬遠してきた。しかし、Sさんから届く狂言の招待状には、必ず演目の解説文が添えられていて、それを事前に読んでいけば、私でもある程度は理解が出来るのである。狂言は相対的に内容のおもしろいものが多く、そんなこともあり徐々に狂言の魅力に惹かれる自分を感じている。

食わず嫌いという言葉があるように、讃岐出身のゆえに「うどん」でないと食べる気がしなく、しばらく東京に来て「そば」は敬遠してきた。しかし、ひよんなことからそば打ちに嵌ってしまい、それを通じて徐々に仲間が増え、その人たちは絵を描けば玄人はだしの人や、文章がとても上手な方など皆一様に多種多芸である。そばはある一面に過ぎないのだが、しかし、そばを通してしか今の人達と知り合えなかったことにも不思議な感じを受けるのである。昔からよく言われるこれも縁であろうか。これからも色々な人から刺激を頂き、食わず嫌いを出来るだけ解消したいと思う。ところで、他人事のように思っていたのだが、私も来年には還暦を迎えることになる。ぜひ、Sさんのように定年後もずっと何か打ち込めるようなものができればと思うのであるが、悲しいかな唯一そば打ちしかないような気がしてくるのである・・・(古津)



イラスト：川俣さん

編集後記

先日、水耕でみつばを栽培している知り合いの方から農薬の安全性をテーマに講習して欲しいと依頼があった。

会場は愛知県豊田市からバスで1時間ほどの山間にある笹戸温泉である。みんなで最新式水耕施設のバラ園を見学してのち宿に入った。総勢15人ほどで、私とリーダーを除けば平均年齢は30歳代と飛びつきり若く、しかもほとんどの人が経営者である。そして、皆一様に勉強熱心で、夜中の12時を回っても情報交換や質問攻めにあい、少々疲れもしたが、このような人達が日本の農業を支えていくと思うと頼もしくもあり、まだまだ農業は捨てたものでないと安心もした次第である。



イラスト：加藤さん

[目次へ戻る](#)